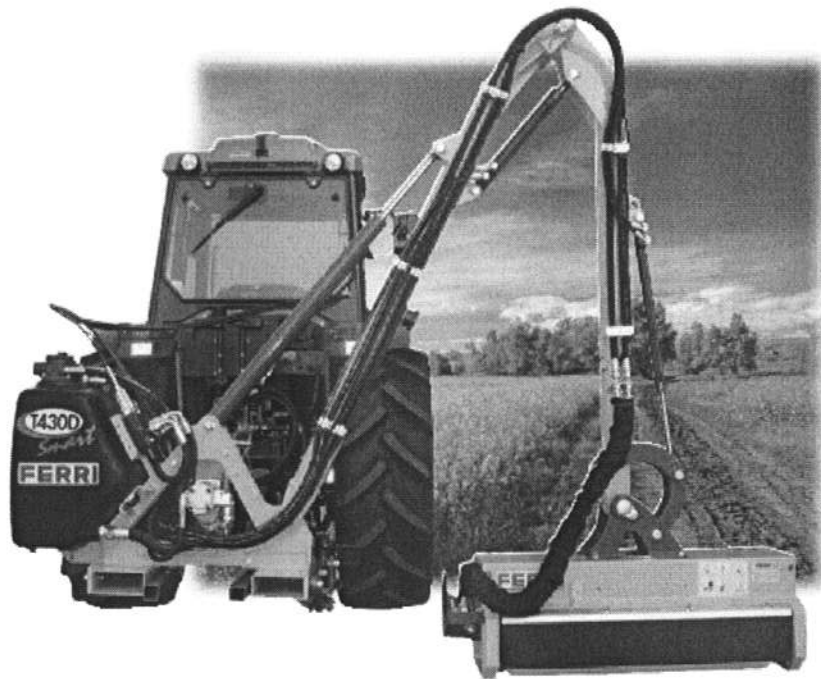


取扱説明書

ブームモア
T380 / T430 / T460



FERRI

2015.5

はじめに

このたびは当社製品をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取り扱い方法、注意事項について説明しています。
ご使用前に必ずよくお読みいただき十分理解され、お買い上げの製品を正しくお取扱いいただき、安全な作業をするためにご活用下さい。
お読みになった後必ず大切に保管し、ご使用中にわからないことがあった時には取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

安全 第一

この取扱説明書の記載した注意事項や機械に貼られた警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。ご使用前によく理解し安全作業を心掛けて下さい。

注意表示について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示します。

重 要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれがあるものを示します。

安全に作業するために

本製品をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で安全な作業を行って下さい。安全に作業をするため守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で説明しています。

1. 一般注意事項



取扱説明書を読む

共同作業や他人に機械を貸す場合は、使用者全員が取扱説明書をよく読んでから使用して下さい。

死亡や重大な傷害事故、機械の破損の原因となります。



作業に適した服装をする

袖口、裾口がきっちりとした作業着を着用して下さい。

回転部に巻き込まれたり、機械に引っ掛かったりするおそれがあります。

死亡や重大な傷害事故の原因となります。



点検・整備をする

機械の使用前後には必ず点検・整備をして下さい。ボルト・ナットの緩み、機械の損傷などを点検し、増し締めおよび修理をして下さい。

傷害事故の原因や機械の破損の原因となります。



改造しない

この機械の改造をしないで下さい。

純正のアタッチメントやパーツ以外は取り付けないで下さい。

傷害事故の原因や機械の破損の原因となります。



他の目的で使用しない

作業機はそれぞれの作業用途に合わせて製造されています。作業用途目的以外の作業では使用しないで下さい。

機械の破損の原因となります。



公道走行時は作業機の装着禁止

公道を走行するときは、作業機を取り外して下さい。

道路交通法違反です。

2. 始業時の注意事項



ナイフ取付けボルト・ナットの点検

ボルト・ナットのゆるみがないか点検し、所定のトルクで締めて下さい。作業中にナイフが外れて、死亡や重大な傷害事故および周囲の器物破損の原因となります。



安全カバーの点検

P T Oシャフトの安全カバーなど全てのカバー類が正しく取り付けられているか点検して下さい。

カバーの外れ、破損、不完全な取付けは、死亡や重大な傷害事故の原因となります。



停止、安定した状態で点検整備する

機械が安定停止した状態で置かれていることを確認した後、点検・整備を行って下さい。不安定な状態や停止していないときは機械が動いたりして、傷害事故の原因となります。

3. トラクターへの着脱時の注意事項



作業機を装着するときはトラクターのエンジンを止める

トラクターのP T Oを切りエンジンを止めた状態にして、作業機をトラクター3点リンクヒッチやドローバーに着脱して下さい。

死亡や重大な傷害事故の原因となります。



P T Oシャフトの着脱と機械の調整・点検時はエンジンを止める

トラクターのP T Oを切り、エンジンを停止し、キーを外してから行って下さい。トラクターやP T Oが急に動き出し、回転部に巻き込まれたり、トラクターや機械との接触などにより死亡や重大な傷害事故の原因となります。



周囲に人（子供）を近づけない。

作業機の着脱時や、作業機の回転をスタートさせるときは人を機械に近づけないで下さい。

接触や異物が飛散し、重大な傷害事故の原因となります。



トラクターと機械の間にたたない

トラクターを移動させて着脱するとき、トラクターと機械の間にたたないで下さい。

接触やはさまれて、**重大な傷害事故の原因**となります。



平坦な場所で着脱する

機械が安定した状態を保てる、平坦な場所で行って下さい。不安定な場所では、機械が転倒して事故の原因になるほか、トラクターが動き**重大な傷害事故の原因**となります。



機械の下に入らない

機械を上げたとき、機械の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないで下さい。トラクターのエンジンを停止していても機械の自重やその他の原因で下降し、**傷害事故の原因**となります。



回転半径内に入らない

トラクターの回転半径は作業機を取付けた場合、トラクターを含めた全体の回転半径は大きくなります。

接触して**傷害事故の原因**となります。

4. 作業時の注意事項



人を近づけない

刈取り作業の開始時および作業中は石・れきなどが飛散する範囲内に人を近づけないで下さい。**死亡・傷害事故の原因**となります。



作業機の調整はエンジンやモーターを止めてから

点検や調整をするときは必ずエンジンやモーターを止めてから行って下さい。回転部に巻き込まれたりして、**死亡や重大な傷害事故の原因**となります。



回転部が停止するまで作業機に近づかない

回転の停止操作（PTOを切るなど）を行った後、回転部はすぐには止まらずしばらく回転（ナイフ回転など）しています。

接触で**傷害事故の原因**となります。



PTOシャフトには近づかない

作業機が回転中はPTOシャフトには近づかないで下さい。
衣服、手などが巻き込まれ死亡や重大な傷害事故の原因となります。



傾斜地での急旋回はしない

トラクターが転倒し、重大な傷害事故の原因となります。



電線に注意する

作業機が送電線に触れないように注意して下さい。高電圧・高電流が流れており、接触すると感電など重大な傷害事故の原因となります。

5. 作業終了後・格納時の注意事項



平坦な場所に格納する

人が近づかないような場所で、かつ、平坦な場所で安定した状態で格納して下さい。

不安定な場合、転倒して傷害事故や機械の破損の原因となります。



作業機の上に乗らない

特に、子供が上に乗って遊ばないように注意して下さい。

転倒して、傷害事故の原因となります。

6. 油圧装置



油圧回路の点検

油圧ホース・油圧カプラー・油圧シリンダーなどが汚れていたり、破損していないか点検して下さい。油圧ホースやシリンダーが破損していると、傷害事故の原因となります。

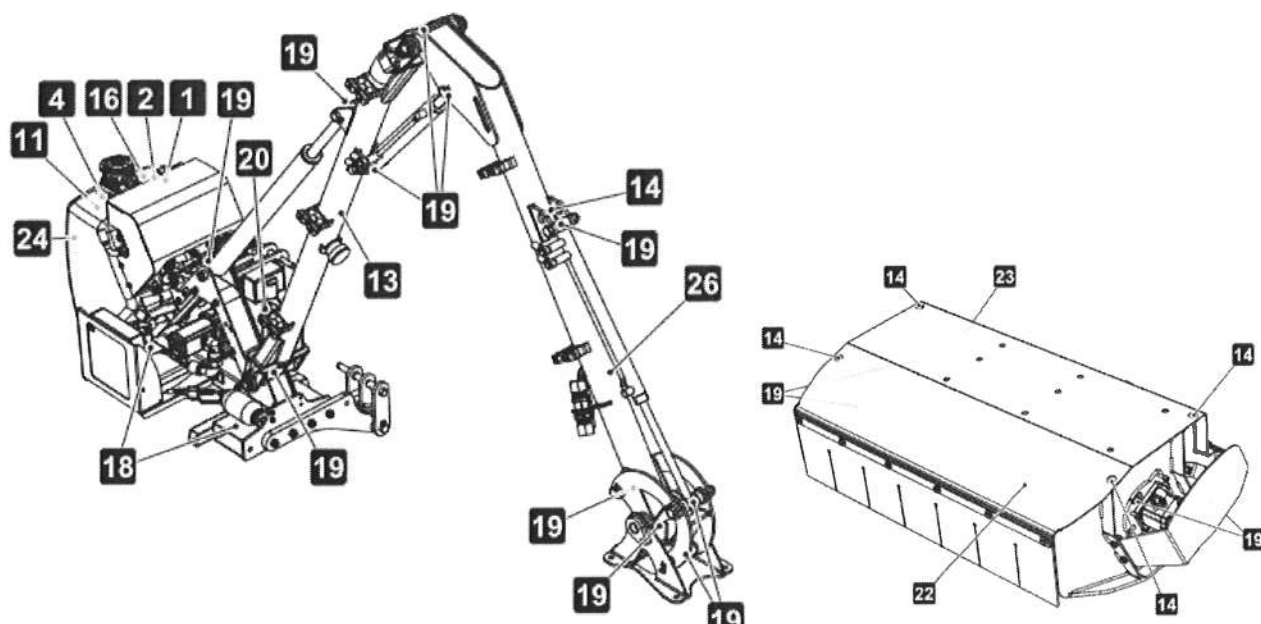


油圧システムには常に注意を払う

油圧システムに突然不具合が発生する事があります。定められた安全装置を必ず使用し、不具合がある場合は専門の技術を有する人が修理などを行って下さい。傷害事故の原因となります。

警告ラベルの貼付位置

安全にお使いいただくために本製品には警告ラベルを貼っています。
破損、紛失した場合は新しいものに貼り直してください。



作業機の保守点検、清掃、修理は、必ずトラクターのエンジンを停止し、イグニッションキーを抜いてから実施してください。



PTOシャフトを回す前に回転数と回転方向を確認してください。



作業中の機械には近づかないでください。飛散物により重大な損害事故の原因となります。作業機から最低50mは離れてください。



運転・作業中は絶対に機械の上に乗ったり、登ったりしないこと。



手を差し入れたり足を差しだしたりしないこと。
重大な傷害事故の原因となります。



回転中に手や足を出すと怪我をします。回転を止めて完全に停止するまで触れないでください。



必要な防具を使用してください。



作動している部分の近くに手を入れないでください。
重大な傷害事故の原因になります。



作業機の積込み・積み下ろし時は所定の吊りフックの箇所を使用し、作業中は機械の下に入らないこと。



PTOが入っている、トラクターのエンジンが動いている場合、絶対にトラクターと作業機の間立たないこと。



フォークリフトで作業機を移動する場合、指定の位置を使用してください。



グリスポイント。8時間毎にグリスを注してください。

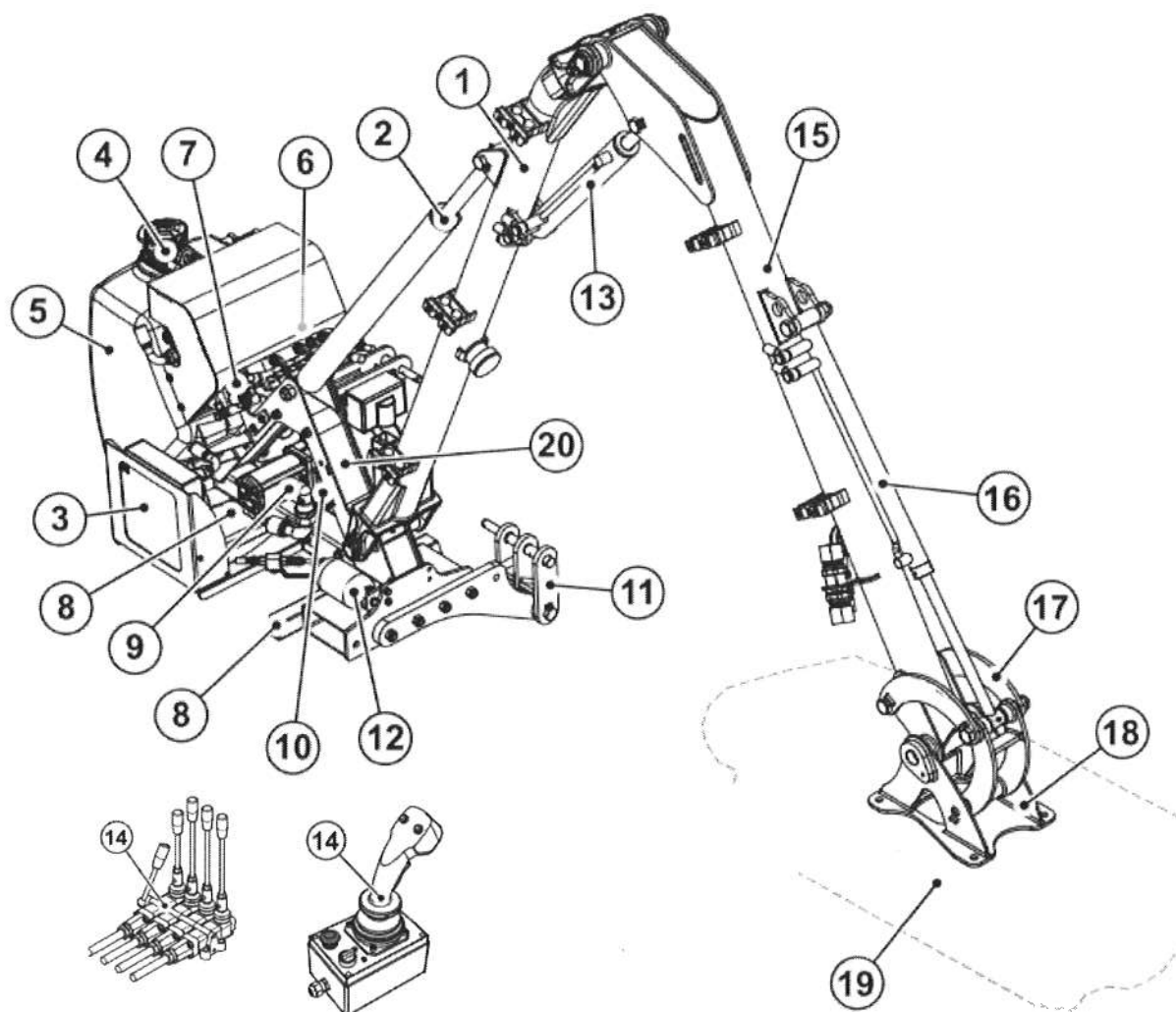


PTO回転数



作業機は一人のオペレーターで操作するように設計されています。
決して子供やほかの人にトラクターや作業機を操作させないでください。

機械各部の名称



1. 第一ブーム
2. 第一ブーム油圧シリンダー
3. オイルクーラー
4. オイルフィルター
5. オイルタンク
6. 油圧シリンダーコントロールバルブ
7. カッターヘッドコントロールバルブ
8. スタンド
9. 油圧モーター
10. ギアボックス

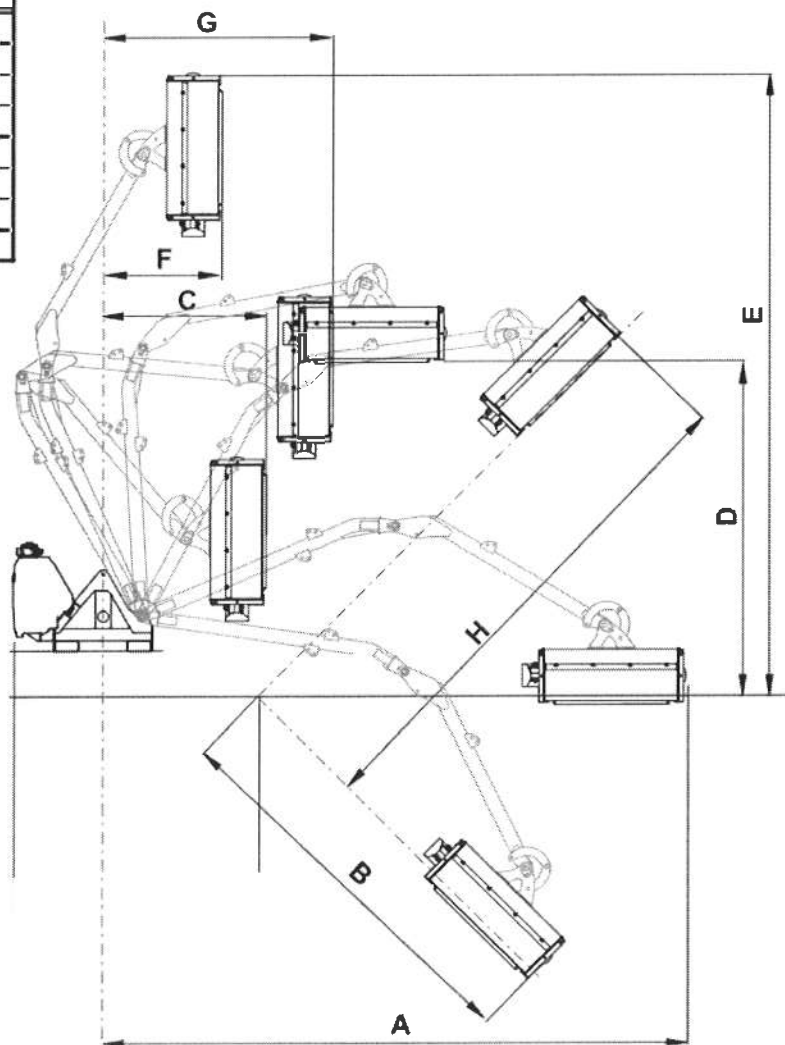
11. トラクターヒッチ
12. 第一ブームサスペンション(オプション)
13. 第二ブーム油圧シリンダー
14. コントロールレバー
15. 第二ブーム
16. カッターヘッド調整油圧シリンダー
17. カッターヘッド調整レバー
18. カッターヘッドヒッチ
19. カッターヘッド
20. フレーム

仕様諸元

型式		T380	T430	T460
トラクター適応馬力	(HP)	45	50	65
推奨トラクター最低重量	(Kg)	1700	2000	2500
PTO回転数	(rpm)	540	540	540
本体重量(TID100ヘッド含む)	(Kg)	490	495	562
タンク使用オイル		ISO-L-HM (68番)		ISO-L-HM (68番)
オイル量	(L)	70		125
ギアボックス使用オイル		220番		220番
オイル量	(L)	0.2		0.8
カッターヘッド型式		TID100		TIL100
カッターヘッド刈幅	(cm)	100		100
ロータースピード	(rpm)	3000		3000
ブレード数		36+18		40
カテゴリー		II		II

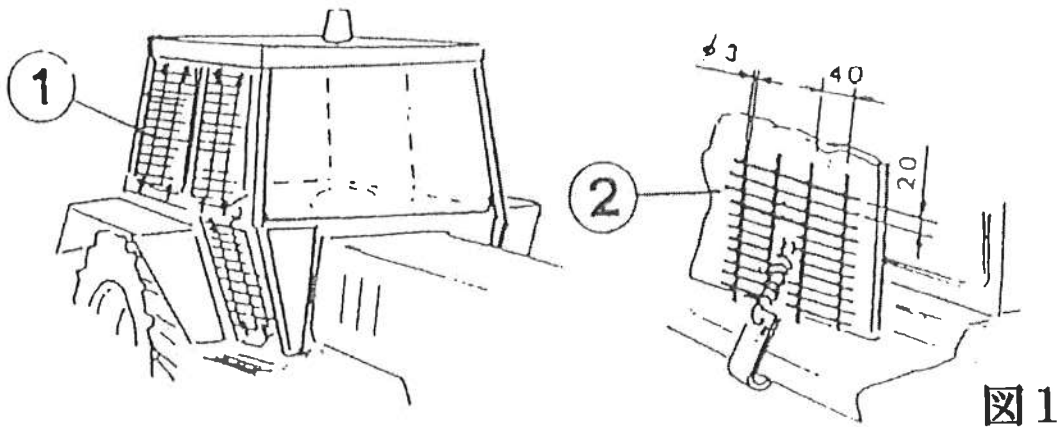
カッターヘッド到達距離表

	T380	T430	T460
A (m)	3.8	4.33	4.56
B (m)	2.4	2.91	2.88
C (m)	0.9	1.2	1.15
D (m)	2.3	2.5	2.29
E (m)	4.2	4.7	4.91
F (m)	1.15	0.9	0.95
G (m)	1.5	1.7	1.65
H (m)	3.4	3.9	4.16



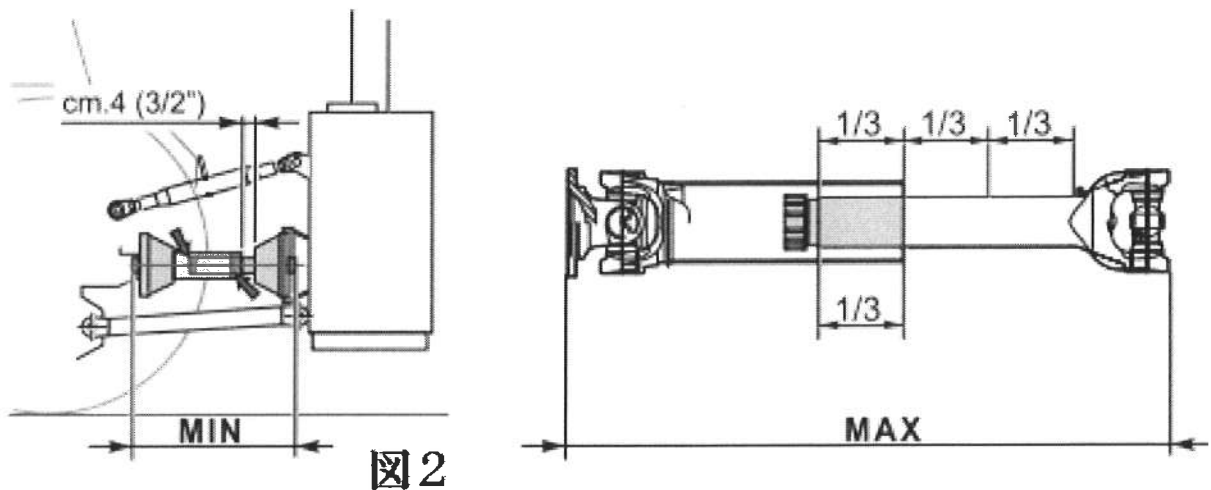
オペレーターの安全のために

- 作業時に作業機から石や木などの飛散からオペレーターを守る意味で、図のようにトラクターのキャップに安全グリル（1）を装着して作業することをお勧めします。
（例）5mm厚のポリカーボンの板（2）を（図1）のようにトラクターキャビンのガラスと安全グリル（1）の間に入れます。
- 安全フレームまたは安全キャビン付きのトラクターを使用してください。
オペレーターおよび作業関係者は必ず安全ヘルメット、安全ゴーグルをして作業を行なってください。



PTO シャフトの装着

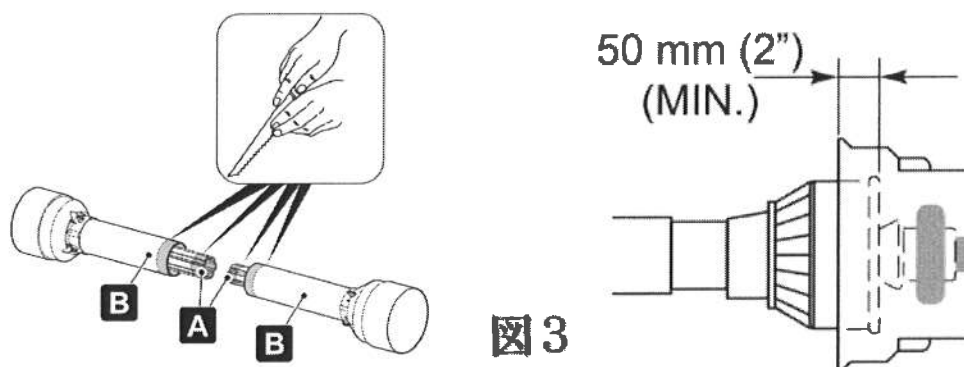
- トラクターの油圧リフトで本機をトラクター側の PTO でシャフトにできるだけ近い位置に置き、PTO シャフトの接続に必要な最小の長さを確認してください。（図2）
- PTO シャフトの内側と外側のチューブの重なりは、最低チューブ全体の長さの 2/3 必要です。また、チューブ端とそれに対するシャフトヨークの端面との間で最低 4 cm 以上の隙間をとってください。



PTO シャフトの切断

- ・ PTO シャフトが長すぎる場合は、プラスチックのプロファイルチューブを適切な長さだけ切断します。
- ・ その後同じ長さだけシャフトチューブを切断します。(図3)
- ・ PTO シャフトの安全カバーとシャフトの重なりは最低でも5 cmは取ってください。
- ・ 切断後は、チューブ内外のバリを取り除き、グリースを十分に塗布し組み付けます。

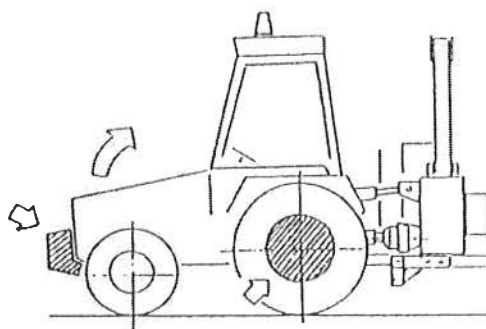
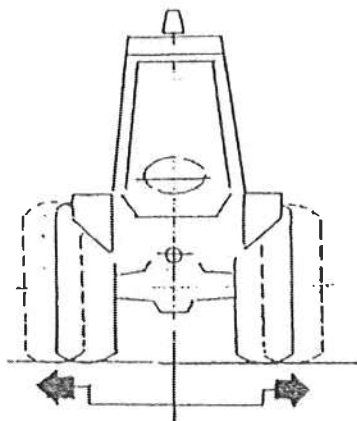
警告作業中は PTO シャフトの安全カバーが回転しないように回転防止チェーンでカバーを固定してください。また、本気を上下させた時にチェーンが破損しないような場所に取り付けてください。重大な傷害事故の原因となります。



作業中のトラクターの走行を安定させるために

ブームモアの構造および作業の性格上、バランスを崩したり転倒するなどの危険を防ぐために、トラクターの走行時の安定を図る必要があります。以下のことを行なってください。

- ・ トラクターの車輪幅を最大にしてください。(図4)
- ・ トラクターの前輪にフロントウェイトを装着し、左側後輪ホイールにバランスウェイトを装着してください。(図5)



コントロールレバー操作

本機のブームモアのコントロールレバーはトラクターキャビン内に設置して使用してください。取り付け位置はオペレーターが楽にできる場所を選び、取り付けも確実にしっかりと行ってください。

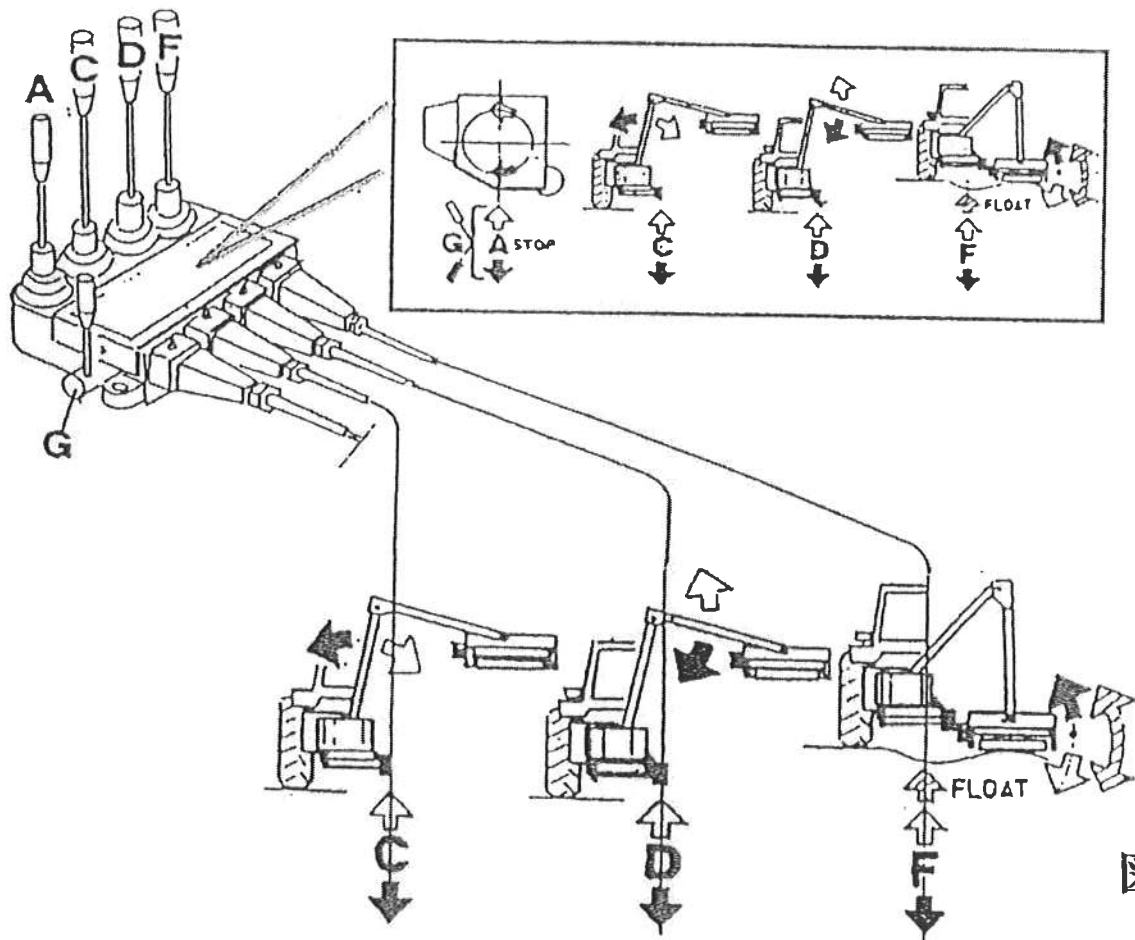


図6

レバーA：ナイフ回転（正転/停止/逆転）操作を行ないます。

（このレバーはロックレバーGとの併用で操作します）

レバーC：第1ブームの上下動作の操作を行ないます。

レバーD：第2ブームの操作を行ないます。

レバーF：カッターヘッドの操作を行ないます。フローテーションにする場合は、レバーを前側まで倒し、戻り止め位置（フロートポジション）でロックされるまでもっていきます。

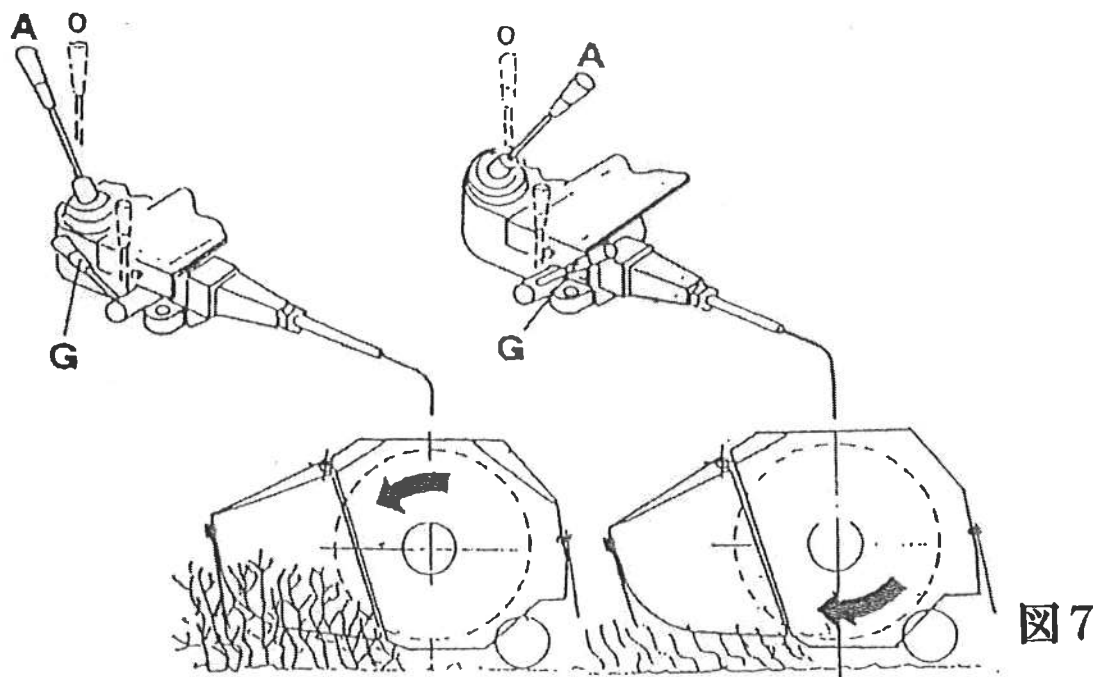
フロートシステムの使用により、カッターヘッドを自動的に地面の条件合わせ左右に上下し、ほ場やヘッドそのものの損傷を防いでくれます。

フロートシステムから通常の操作へ戻る場合には、レバーをニュートラルの位置にもどします。

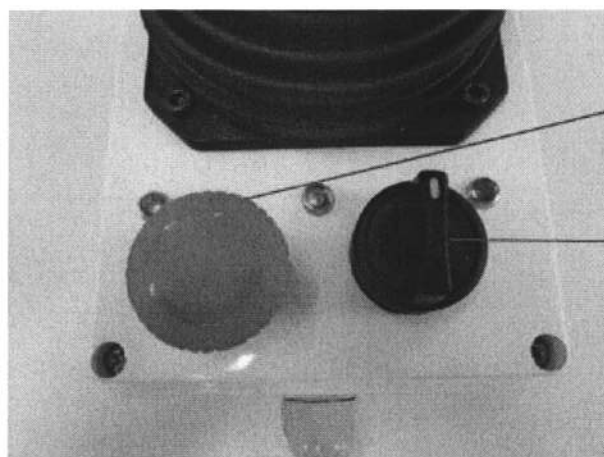
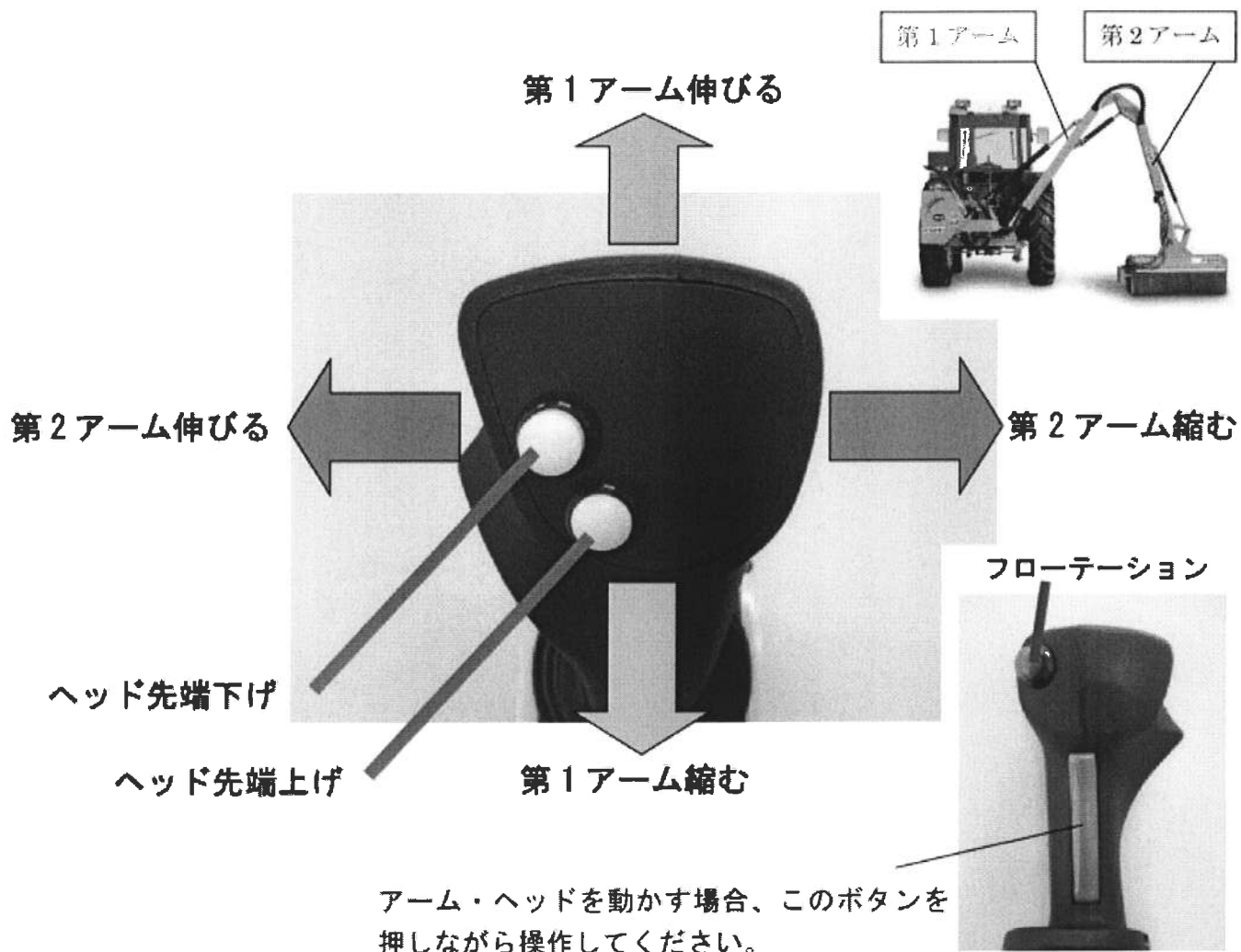
レバーG：このレバーは1本のレバーによる操作ミスを防ぐための安全レバーとなります。

正転および逆転からの急激な操作変更を防止し、本体の損傷を防ぐ意味で使用します。

注意 ナイフ回転方向切り替えの場合には、レバーAを1度中立の位置にし、ナイフの回転が完全に停止した後、レバーGのロックレバーを切り替えて回転方向を変えてください。そうでない場合に油圧モーターの破損を引き起こす可能性になります。



ジョイスティックレバー操作



※正転⇒逆転、逆転⇒正転と回転方向を変えるときは、必ず一旦中立にし回転が完全に停止してから、再度スタートさせてください。慣性モーメントが大きいので、回転中に反対方向に回転させると、駆動部分を破損させますのでご注意ください。

作業の開始

作業開始の前に、

- ・ トラクターの PTO シャフトの回転数および回転方向が適切か確認してください。
- ・ 各種配線、パイプ類がきちんと固定され、折れ曲がっていないかを確認してください。
特に本機の動作に支障をきたす部分がないかをよく確認してください。
- ・ オイルタンク、ギアボックス内のオイル量が適切か確認してください。
- ・ 全ての安全カバー、ガード類が正常な状態であるか確認してください。
- ・ ナイフ回転用のコントロールレバー類がニュートラルの位置になっているかを確認してください。
- ・ トラクターの PTO を入れ、最初の 2～3 分間アイドリング状態でトラクターエンジンを回転させ、オイルを循環させます。
- ・ 油圧コントロールレバーで、ブーム操作を行い正常に機能するか確認します。
- ・ カッターヘッドを安全な場所に置き、エンジンの回転を徐々に上げ、コントロールレバーでナイフの回転操作を行ないます。ナイフの回転は数秒後に所定のフルスピードになり作業を開始できます。

作業モード

本機を作業形態に合わせて調整します。

- ・ 刈り高の調整を行ないます。(図 8)
- ・ 牧草の刈り取り作業の場合、ナイフの回転方向は(図 9)のようになります。
- ・ 灌木、小枝等を刈り取る場合、ナイフ回転は(図 10)のようになります。

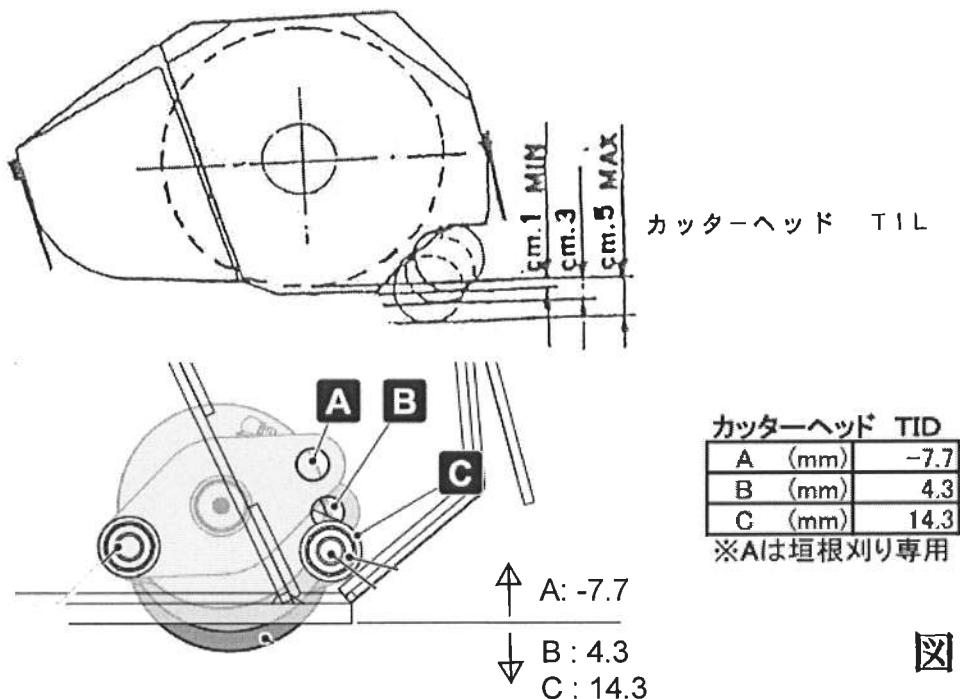


図 8

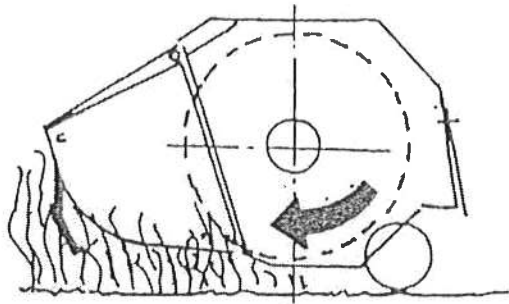


図9

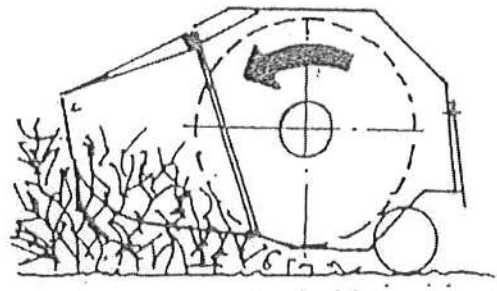


図10

刈り高の調整と設定

1. 刈り取る作物に応じたり、希望する刈り取りを行なうための刈り高の調整をしたりするのはヘッドのローラーで行ないます。
2. カッターヘッドにより調整が違いますので（図8）を参照してください。
3. 安全の理由から、作業は必ずローラーを使用して行なってください。
4. 作業スピードは刈り取る作物の種類や希望の刈り取りの内容に沿った適切なスピードを選択してください。

ブーム安全機構

作業中障害物に当たった場合、ブーム全体が後方へスイングしカッターヘッドを守ります。スイング後は自動的に復帰します。

注意

ブームが折れた状態の場合は、ブーム全体の角度が本機より 12° を越えないようにしてください。本機やブームに異常やストレスを起こし損傷の原因となります(図12)

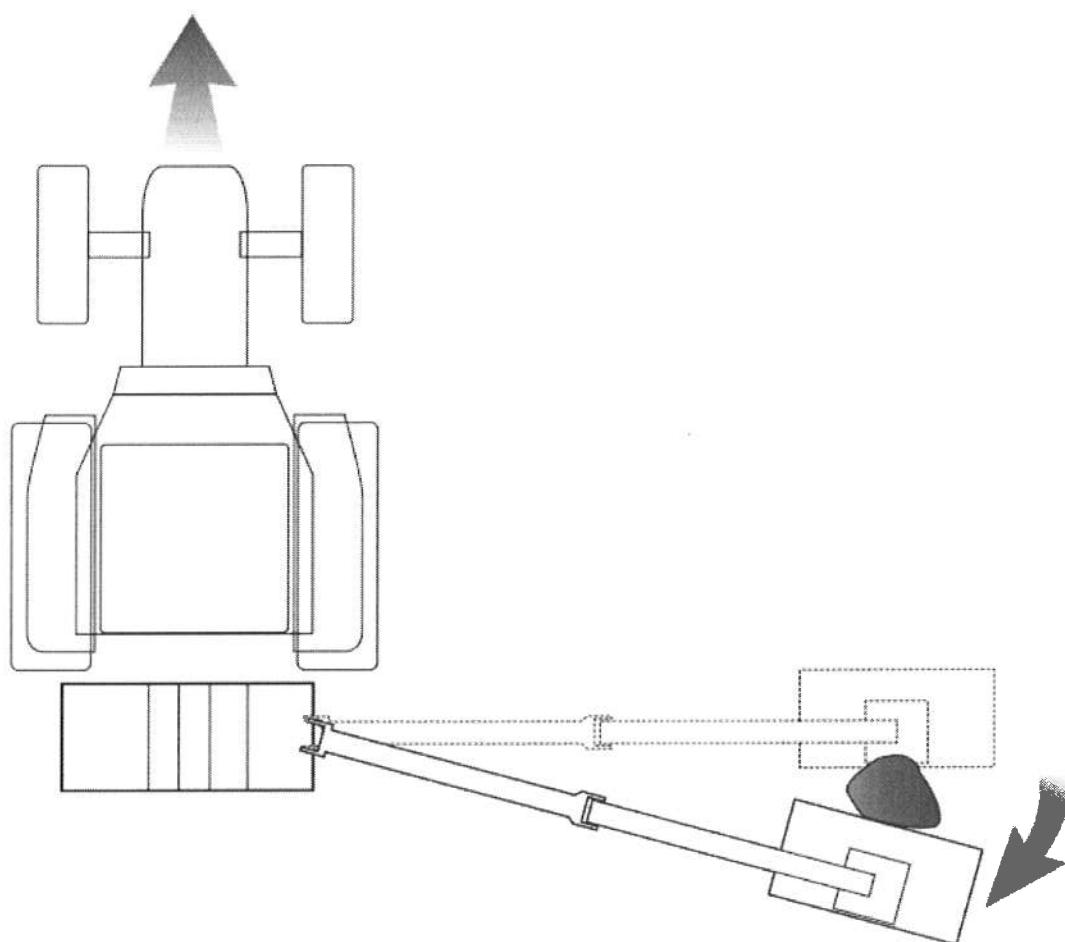


図12

オイルクーラー

長時間作業を行なう場合や、暑い中での作業を行なう場合にオイルクーラーが作動します。油温が 50°C を超えると自動的に電動ファン(12V/2.5A)によるクーリング機能が作動します。

作業時の安全注意事項

重要 カッターヘッドに異常な振動がある場合には、本機の使用をやめてください。そのまま使用しますと、本機への重大な損傷を引き起こす原因となります。速やかに振動の原因を突き止め、振動のトラブルを解消してください。

注意 作業中は排水側溝、縁石、ガードレール等に接触しないように十分注意してください。

これらの物にナイフなどが接触し破損した場合には、ナイフが高速で回転し飛散する可能性があります。非常に危険です。

危険 ワイヤー、ロープ、チェーンなどがローターに絡まった場合は、速やかにローターを止め本機の損傷を防いでください。安全のため、トラクターのエンジンも止めエンジンキーを抜いてください。その後、手袋などをはめプライヤーやせん断バサミを使い、ローターに絡まった異物を取り除いてください。尚、ローターを逆転して異物を取り除くことは絶対にしないでください。

警告 トラクターが傾斜地で作業を行なう場合は、ブームを引き伸ばした状態で作業を行なわないでください。バランスを崩し転倒するなど大きな傷害事故を起こす危険があります。

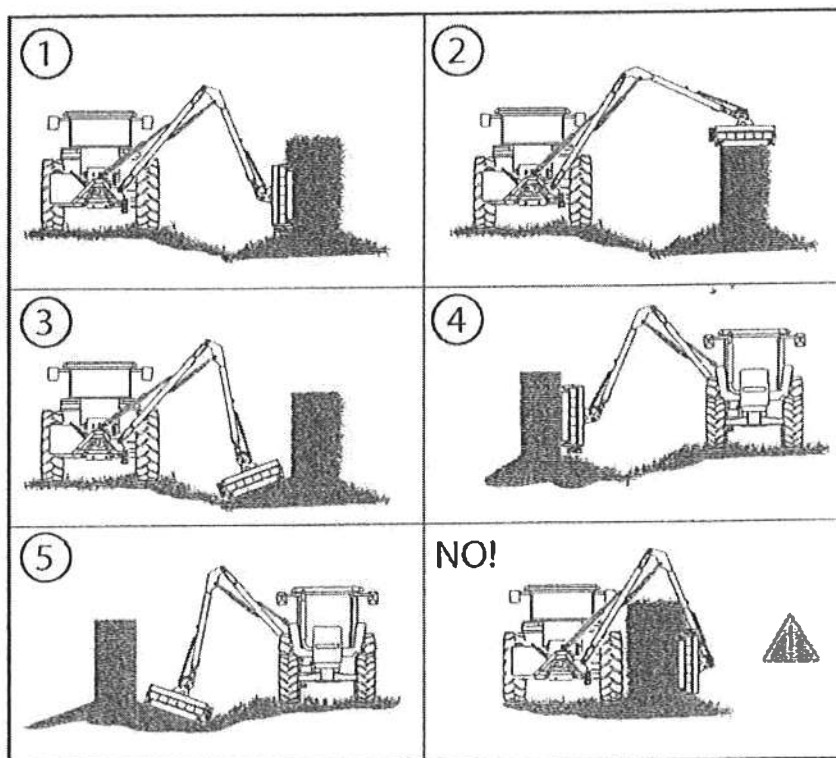


図13

油圧システムに関する安全注意事項

以下の点に注意して作業してください。

- ・ トラクターを止める前に、レバーGとAをニュートラルの位置に入れ、ナイフの回転が完全に止まるまで待ってください。
- ・ ブームを畳み、カッターヘッドを地面に降ろしてください。
- ・ PTO シャフトを外してください。
- ・ トラクターのエンジンを止め、エンジンキーを抜きハンドブレーキを掛けてください。
- ・ 本機の置き場所が傾斜地の場合、トラクターのタイヤに輪止めをしてください。

また、

- ・ オイル漏れが発見された場合は速やかに作業を中止し、その原因を突き止めトラブルを解消してください。
- ・ 油圧ホースは亀裂や損傷などがないか定期的に点検してください。亀裂や損傷があればホースを新しいものに交換してください。

注意 油圧システムを作動させる時は、安全のためカッターヘッド本体を下に降ろし、トラクターの走行を止めてから行なってください。また、すべての油圧（油圧システムおよび戻り/リターン）を抜いてから操作を行なってください。

危険 オイル漏れ作業に当たる場合、布等を当てるなどして絶対に素手でオイルに触れないでください。高温、高圧のオイルのため皮膚などに大きな損傷事故を起こす危険があります。

移動時の注意事項

- ・ ブームとカッターヘッドは、移動中に動かないようにベルトでしっかりと固定してください。(図14)
- ・ トラクターのPTOは必ず切って移動してください。

重要移動時、特に凸凹の多い路上ではトラクターの走行スピードを十分に落として走行してください。凸凹による機械の重量バランスが崩れ、走行に影響を及ぼすだけでなく、本機自体の損傷を招く恐れがあります。危険ローターを回したままでの移動は、移動距離が短くても絶対に行なわないでください。死亡や重大な損害事故および周囲の器物破損の原因となります。また、移動時に誤ってコントロールレバー類が動くことのないように十分注意してください。

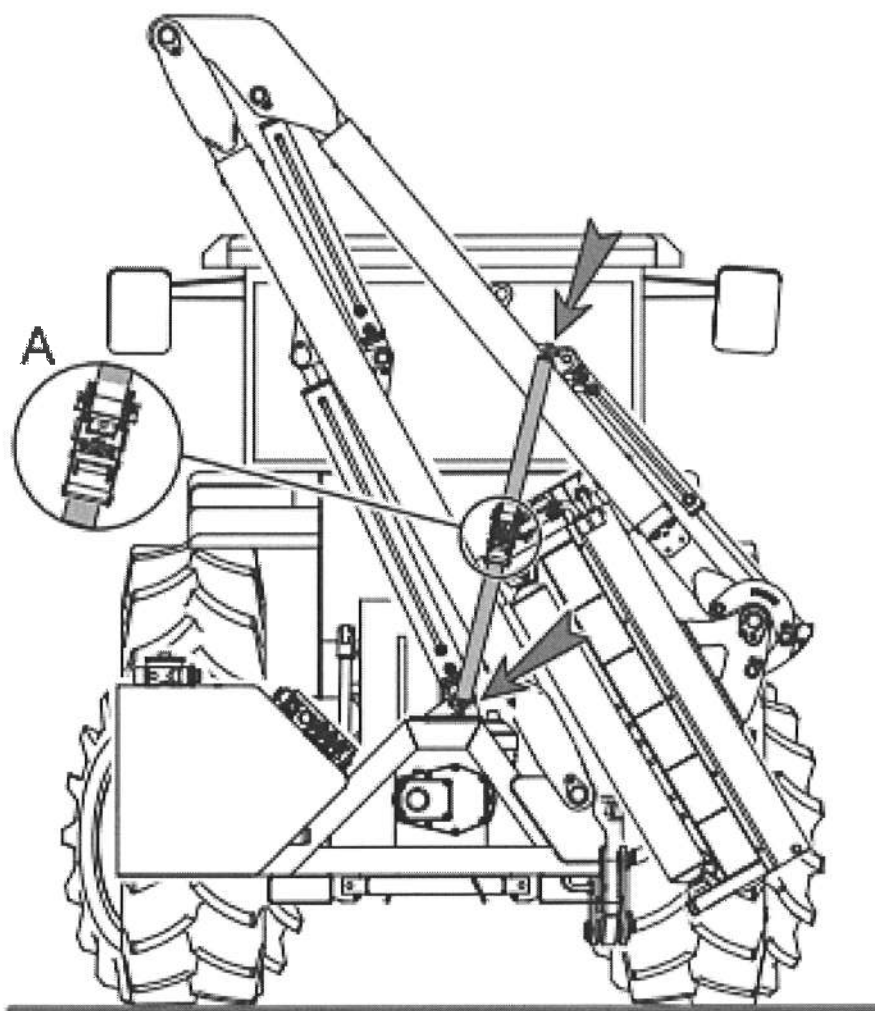


図14

作業終了時の保管

- ・ 作業終了後は、本機を安全でできるだけ平坦で安定した場所に置いてください。
- ・ スタビライザー付き機械の場合はスタビライザーを外します。
- ・ トラクターの油圧リフトで、スタンドを下側に降ろしロックし、ブームを畳みカッターヘッド部を下側にしたうえで本機を地面に降ろします。(図15)

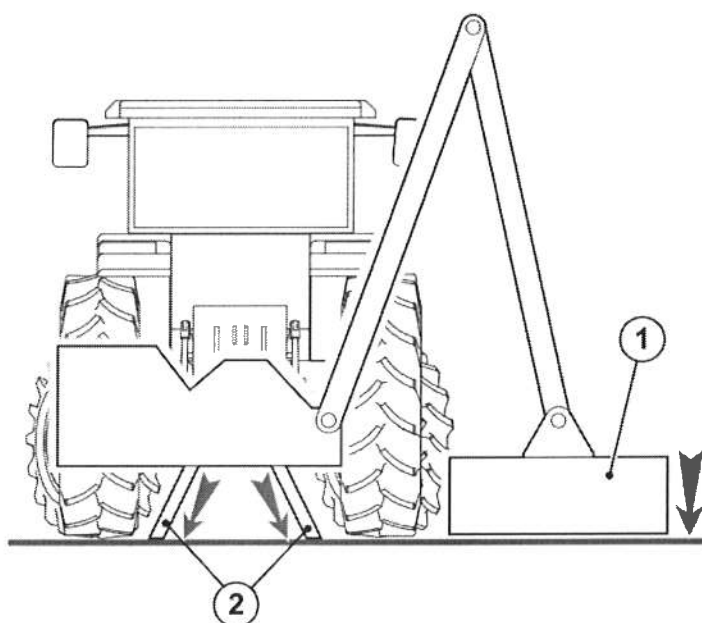


図15

保守管理

危険 パーツの交換作業を行なう場合は、必ずカッターヘッドを地面に降ろし、トラクターのPTOを切り、エンジンを止めてから行なってください。死亡や重大な傷害事故の原因となります。

1. ナイフの交換

- ・ ナイフが磨耗してきたら交換してください。
- ・ ナイフの1つが破損し交換する場合には、破損した箇所と対角線にあるナイフも同時に交換することをお勧めします。(バランスを維持する理由から：図16参照)
- ・ ナイフ交換は、まず取り付けボルト・ナットに付着した土などを取り除き、その後ボルト・ナットを外し交換してください。
- ・ 1部バランスをとるためのウェイトが入っている時があります。交換の際無くさないようにしてください。

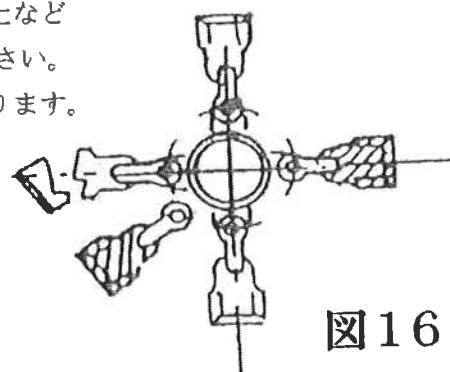


図16

注意 ナイフは絶対に素手で触らないでください。傷害事故の原因となります。

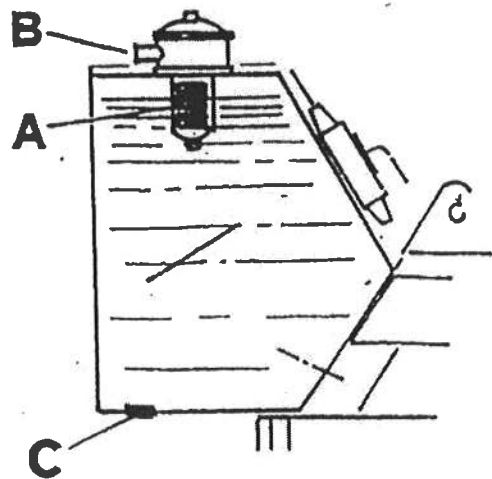
注意 ナイフの取り付けボルト・ナットは異常がない場合でも、ナイフ交換2回毎に取り替えることをお勧めします。

2. 油圧ホースの交換

- ・ 油圧ホース交換作業を行なう前に、必ずトラクターのエンジンを止め、油圧操作レバーで油圧ライン内の圧を全て抜いてから行なうようにしてください。
- ・ オイルタンクのふたを開け、タンク内のオイルを空にします。
- ・ 油圧パイプの泥や埃などはきれいにふき取ってください。油圧システム内で大きなダメージをこうむることがあります。
- ・ 交換するホースは純正のものと交換するか、もしくは純正に準じた規格のものと交換するようにしてください。油圧ホース類がブームの動きに干渉しないか、また折れ曲がっていないかも確認してください。

3. オイルとフィルター交換

- ・ 始動後20時間、その後は200時間ごと、または少なくとも6ヶ月ごとにオイルタンクのオイルフィルター[A]を交換してください。
- ・ 1000時間ごと、または年に1度[C]のドレイン部よりオイルを抜いて、油圧オイルの交換を行ってください。その場合はオイルタンクの洗浄も行ってください。
- ・ ギアオイルは50時間ごとにオイルレベルの確認してください。オイル交換は500時間ごとに交換することを推奨します。



4. 保守管理

危険保守管理をする時は、トラクターの PTO を切りエンジンを止めてから行なってください。死亡や重大な傷害事故の原因となります。

- ・ 作業 8 時間ごとに (図 18) の各箇所に注油を行なってください。
- ・ 定期的にボルト・ナットの増し締めを行なってください。
- ・ ブームの磨耗や損傷部がないかを定期的を確認してください。
- ・ 各部のオイル・オイルタンクのオイル量、グリース部の点検を定期的に行なってください。
- ・ 作業終了後は、泥や埃の付着や焼き付き防止のために、地面に近い部位のピンやベアリング類に注油を行なってください。
- ・ 作業 100 時間ごとに PTO シャフトの可動部にグリースアップを行なってください。
使用グリース : AGIP GR MU EP/2 (DIN 51825 (KP2)) 相当

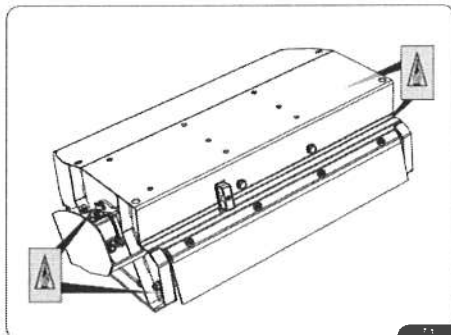
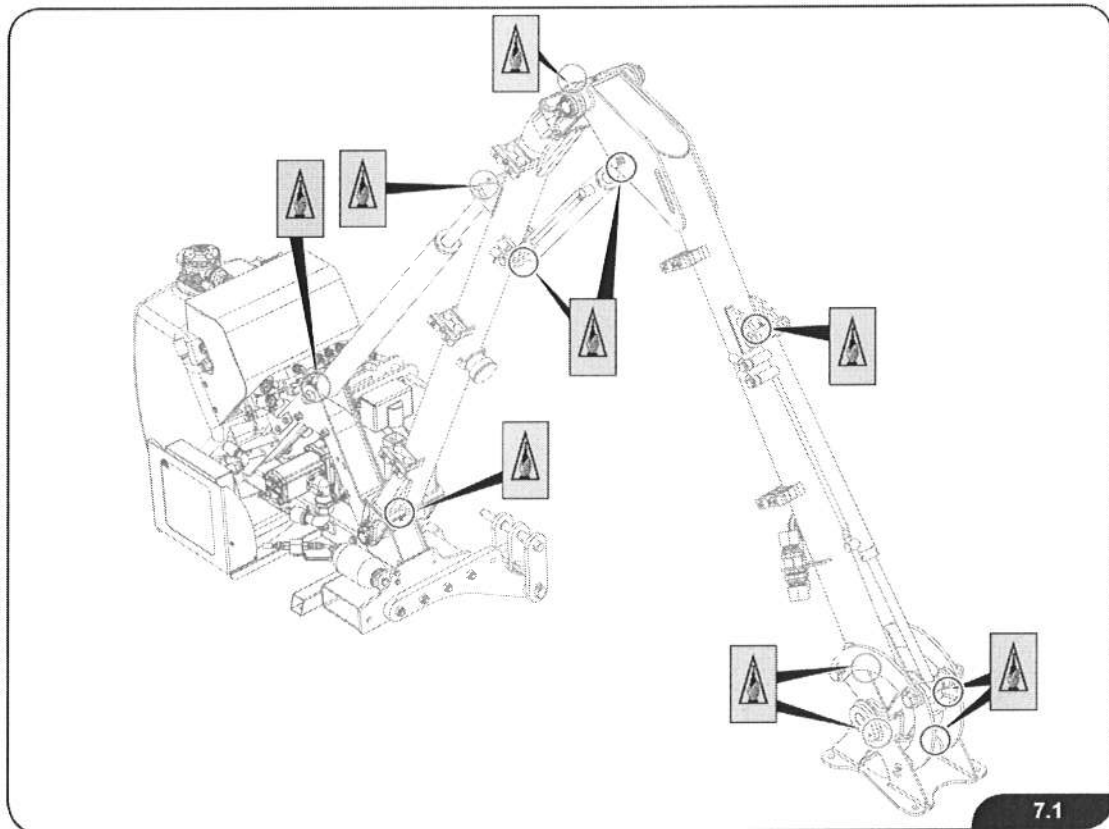


図18

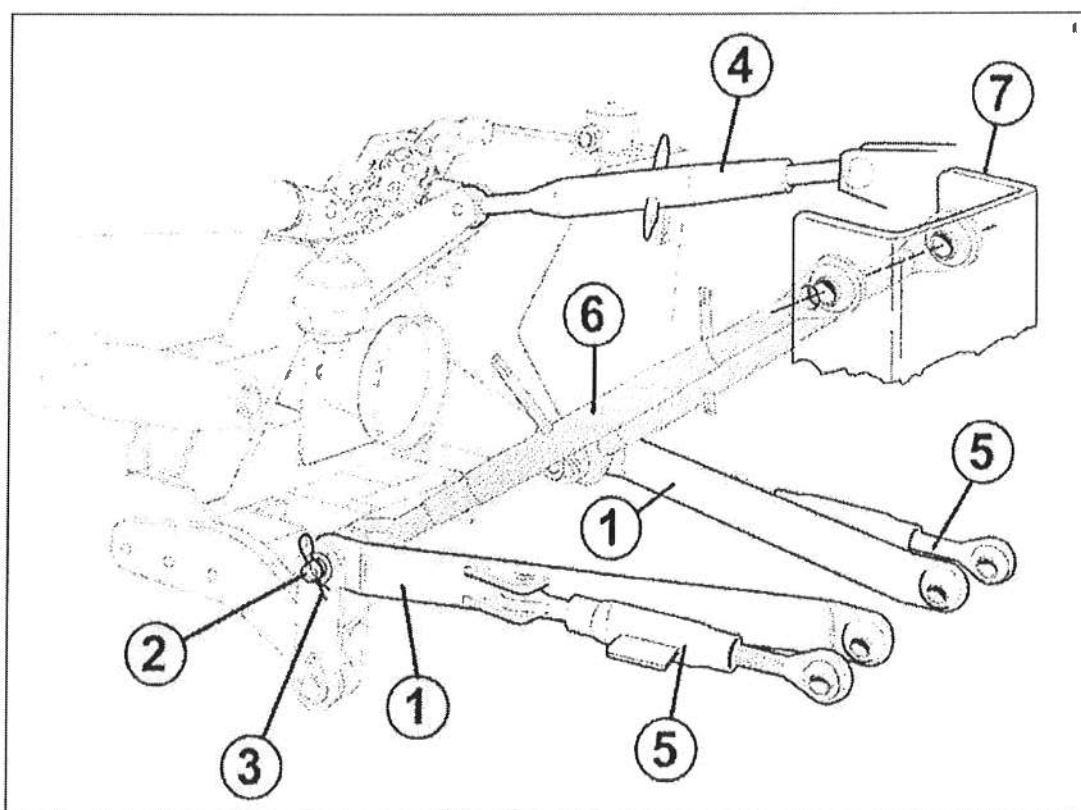
トラブルシューティング

トラブル	原因	対策
刈取りがきれいにならない	-フレナイフの磨耗、曲がり -カッターヘッドが刈取り面に水平でない -作業スピード過剰による作物の詰り	-ナイフ交換 -カッターヘッドが刈取り面に水平になるよう、油圧シリンダーで調整 -作業スピードを落す
機械の騒音	-ボルトの緩み -本体フレームの亀裂、損傷	-ボルトの増し締め -専門の工場での亀裂、損傷の修理
ギアボックスの騒音	-オイル量不足 -ギアの磨耗 -ベアリングの磨耗	-規定のオイル量を給油 -ギア交換 -ベアリング交換
振動	-フレナイフの破損または磨耗 -ローターのバランス不良 -ローターベアリングの磨耗	-フレナイフの交換 -ローター交換 -ローターベアリングの交換
フレナイフの早期磨耗	-ナイフが地面接触	-刈高の調整
ブーム、ジョイント部でのガタ	-ピン磨耗	-ピン交換
ブーム下がり	-油圧シリンダーの磨耗	-油圧シリンダー交換
ローターベアリングの損傷	-ブーム降下時の地面との接触インパクト過剰 -ベアリングの汚れ、グリス不足	-ブームの降下をゆっくりと行なう -ベアリングを清掃、グリスアップ
ロータースピードの減速	-油圧システム内の油圧不足	-油圧ポンプのチェック
油圧オイルのオーバーヒート	-油圧システムのチェック要	-専門業者にチェックを依頼

スタビライザーの取り付け

注意

スタビライザーをセットした後、絶対にトラクターの油圧でロアーリンクを上下させないでください。

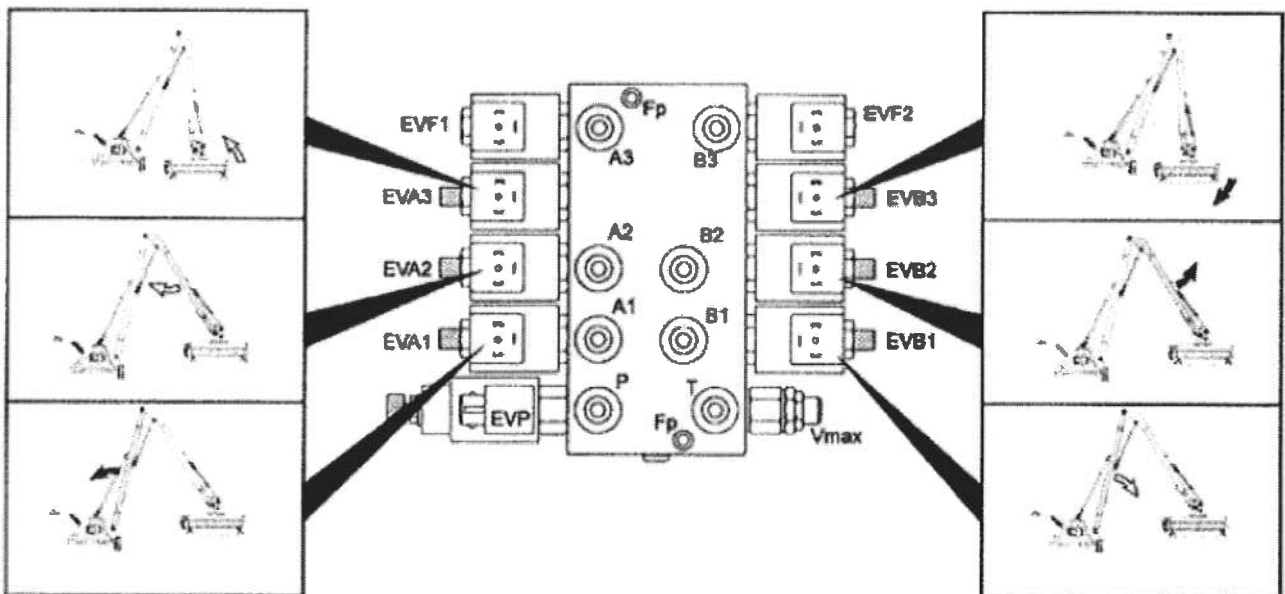


コントロールボックスでの操作ができない場合の応急処置

作業中に何らかの原因により、ジョイスティックでの各操作ができなくなった場合、つぎの要領でマニュアル操作が可能です。この操作で、ブームおよびカッターヘッドを作業位置から運搬位置に戻してください。

1. トラクターの PTO 回転数を 300rpm 以下にしてください。
2. EVP のソレノイドのつまみを緩めた状態、その他のソレノイドのつまみは全て締めこんだ状態であることを確認してください。
3. EVP のつまみを締めこみます。
4. 操作の必要な部分のつまみをゆっくり緩めていきます。目的の位置になったらつまみを締めます。

※再びジョイスティックを使用する場合、つまみを[2]の状態に戻してください。





札幌営業所：北海道千歳市上長郷 1121-2
TEL 0123-26-2241 FAX 0123-26-2230

帯広営業所：北海道河西郡芽室町東芽室基線 19-1
TEL 0155-62-6401 FAX 0155-62-6403

東北営業所：岩手県紫波郡矢巾町広宮沢 10-520-11
TEL 019-614-9520 FAX 019-614-9522

関東営業所：福島県西白河郡泉崎村泉崎第一工業団地
TEL 0248-53-4121 FAX 0248-53-4123

九州営業所：熊本県上益城郡益城町広崎 1586-8
TEL 096-237-7766 FAX 096-237-7767